# 第 2 学 年 道 徳 学 習 指 導 案

日　時　平成18年10月12日（木）５校時
学　級　２年Ｃ組(男12名　女16名　計28名)
指導者　教諭　小田中　美奈子

１　主題名　「生きている喜び」　　内容項目　３－（２）（生命の尊重）

２　資料名　「やったあ、生きている」　（出典「日本文教出版　あすを生きる２」）

３　主題設定の理由

(1)　ねらいとする価値について

内容項目３－（２）は、学習指導要領では、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」としている。生命は、かけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にこたえようとする心の現れといえる。自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命への尊厳、尊さを深く考えることが大切である。

中学生の時期には、健康な毎日が過ごせるためか自己の生命に対するありがたみを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのためか、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。このような発達段階の中学生に、生き抜くことの大切さや生命尊重の意味を考えさせることは意義あることと考える。

(2)　ねらいに関わる生徒の実態について

学級全体としては、明るく素直な生徒が多い。道徳の時間では、発問に対する生徒の反応は良いが、思いつきの発言も多く、じっくりと自分の考えを深めていこうとする姿勢を育てていく必要がある。

５月に行われた道徳性検査（NEW HUMAN）における「３－（２）生命の尊重」に関わる結果は次のようになり、全国平均に比べて望ましい状況にあるといえる。

○「３－（２）生命尊重」の判定出現率（%）　Ｃ：発達が不十分　Ｂ：おおむね発達　Ａ：十分発達

| | C | B | A |
|---|---|---|---|
| 学級 | ２９ | １４ | ５７ |
| 全国 | ４２ | ２７ | ３１ |

しかし、普段の生活では、人を傷つけるような言葉や生命を軽視していると思われる言葉を使う場面も見られ、意識と行動のずれを感じることも少なくない。本資料を通して、生命の有限性の観点から生命尊重の意味を考えることで、自他の生命を大切にしようとする心情を高め、行動化へとつなげていきたい。

(3)　資料について

心臓病をかかえながらも、中学生になるまでマラソン大会で活躍できるほど元気に生きてきた主人公。中学１年生の夏休みに突然、「すぐに手術をしないと生命の保証はできない」と医師に告げられる。手術は無事成功し、麻酔から覚めた主人公は生きられたことに喜び、涙を流す。

手術後、Ｉ・Ｃ・Ｕで必死に生きようとする赤ちゃん（生）と心臓病で亡くなった人（死）に直面し、生命についてより深く考えることになった主人公が、生きたくても生きられない人の存在を知り、自殺者への同情心をきっぱりと捨てる。生と死の両面から、生命尊重の意味を考えることのできる感動資料である。

４　指導にあたって

「自分の生命」と「他人の生命」、「生きられたこと」と「生きたくても生きられないこと」などの対比を通して、生命の尊さについて理解を深めることのできる資料である。これらの対比は、主人公が他人の生と死に直面したことをきっかけとしているので、資料を分割提示することにより、主人公の意識の変容をより深く捉えさせていきたい。

終末では、自己の振り返りとして心のノートを活用する。これは、事前に扱った自分の誕生の隣り合わせのページに感想を記入することで、資料同様、生と死の両面から自分の生命を見つめさせたいという意図があるからである。普段意識することの少ない自分の生命にも、「限りがある」という自覚を深めた上で、一生懸命生き抜こうとする心情を育てたい。

5　本時の指導

(1)　ねらい

生命のかけがえのなさ、尊さを理解し、自他の生命を大切にして、充実した人生をおくる心情を育てる。

(2)　展開　　○　基本発問　　◎　中心発問　　～～～線　期待する生徒の反応

| 段階 | 学習活動と主な発問 | 予想される生徒の意識 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>5分 | 1　心臓の絵を見て、連想することを自由に発表する。 | ・命<br>・鼓動<br>・動いている<br>・心臓マッサージ | ・心臓の働きを説明すると共に、心房中隔欠損症という病気がどんな病気であるかを説明する。 |
| 展開<br>40分 | 2　資料（前半）を読み、あらすじと登場人物について確認する。 | | ・資料の前半を範読する。 |
| | ○「すぐ手術を･･･でないと生命の保証はできない･･･。」と言われたとき、主人公はどんな気持ちになっただろうか。 | ・ショックを受けた。<br>・生きていけるのか不安。<br>・もう生きていけない。<br>・死ぬことがこわい。 | ・今まで元気に生きてこられた主人公が、生命の危険に対する恐怖を感じていることを捉えさせる。 |
| | ○　手術後、目から熱いものがこぼれるのを感じた主人公はどんな気持ちだろうか。 | ・やったあ、生きている。<br>・生きられて、うれしい。<br>・助かって良かった。<br>・ありがたい。 | ・無事に手術を終えた主人公が、生きられたことの感激に共感させる。 |
| | 3　資料（後半）を読み、内容を確認する。 | | |
| | ○　赤ちゃんの姿や夫を亡くした妻の叫びを聞いて、主人公が感じたもの何だろうか。 | ・命は大切なものだ。<br>・生きていることは素晴らしい。<br>・助かった自分の命を大切にして生きていこう。 | ・他人の生と死を目の当たりにし、主人公が改めて生命の尊さに気づいたことを捉えさせる。 |
| | ◎　主人公が自殺をする人に対して同情心をきっぱり捨てたのはなぜだろうか。 | ・自分の命を絶つことは、生命を軽視していることになるから。<br>・死にたくなくても、病気などで死んでいかなければならない人もいるので、命を粗末にすべきではないから。 | ・限りある生命を一生懸命生きていこうとする主人公の心情を捉えさせる。 |
| | 4　自己を見つめる。<br>・今日の授業を通して思ったことや感じたことを心のノートに記入する。（p.69） | ・限りあるたったひとつの生命を大切にし、生き抜いてこう。 | ・自らの誕生と生命の有限性の両面から、自分の生命を感じさせ、前向きに生きようとする心情を育みたい。 |
| 終末<br>5分 | 5　教師の説話<br>・心のノートの中から、詩を紹介する。（p.76） | | ・余韻を残して終りたい。 |

6　評価

生命のかけがえのなさ、尊さを理解し、自他の生命を大切にして、充実した人生をおくる心情を育てることができたか。

7　資料分析図（やったあ、生きている）

| 主な場面 | 主人公の意識 | 生徒の意識 | 意識の焦点化 | 主な発問 |
|---|---|---|---|---|
| ・軽い気持ちで病院の玄関をくぐった主人公と母に医師から死の宣告にも似た言葉が告げられた。 | ・今まで元気に過ごしていたのに、わたしはもう死んでしまうのだろうか。<br>・両親や兄弟にもう会えないかもしれない。 | ・軽い気持ちで来たのに。<br>・ショックを受けた。<br>・生きていけるのか不安。<br>・死ぬことがこわい。 | ・心臓病を抱えながらも、今まで元気に生きてこられた主人公が、突然の医師の宣告によって命の危険に対する恐怖を感じていることを捉えさせる。 | ・「すぐ手術を…でないと命の保証はできない…。」と言われたとき、主人公はどんな気持ちになっただろうか。 |
| ・手術後の深い眠りから目をさました主人公は、自分が生きている喜びを感じ、涙を流す。 | ・やったあ、生きている。わたしは生きられた。<br>・わたしの生命を助けてくれてありがたい。 | ・やったあ、生きている。<br>・生きられて、うれしい。<br>・助かって良かった。<br>・ありがたい。 | ・死の恐怖を感じながらも無事に手術を終え、生きられたことの感激を、主人公の気持ちに迫って共感させる。 | ・手術後、目から熱いものがこぼれるのを感じた主人公はどんな気持ちだろうか。 |
| ・集中治療室で、赤ちゃんの姿を見たり、夫を亡くした妻の叫びを聞いて、改めて命の尊さを実感する。 | ・世の中には病気と闘っている人や生きたくても生きられない人がたくさんいる。<br>・助かった自分の生命を大切にして生きていこう。 | ・命は大切なものだ。<br>・生きていることは素晴らしい。<br>・自分の命を大切にして生きていこう。 | ・他人の生と死を目の当たりにした主人公が、改めて生命の尊さに気づいたことを捉えさせる。 | ・赤ちゃんの姿や夫を亡くした妻の叫びを聞いて、主人公が感じたものは何だろうか。 |
| ・自殺する人に対する同情心をきっぱり捨てた。 | ・自ら捨ててしまうほど必要のない生命ならば、病気とたたかっている人たちにゆずってほしい。 | ・自分の命を絶つことは、生命を軽視していることになるから。<br>・生きたくても生きられない人がいるので命を粗末にすべきでない。 | ・限りある生命を一生懸命生きていこうとする主人公の心情を捉えさせる。 | ・主人公が自殺をする人に対して同情心をきっぱり捨てたのは、なぜだろうか。 |

板書計画（やったあ、生きている）

やったあ、生きている

心房中隔欠損症

心臓の図

・命
・鼓動
・動いている

「すぐ手術を…でないと生命の保証はできない…。」

・ショック
・生きていけるか不安
・もう生きていけない…
・死ぬことがこわい

目からとめどもなく熱いものがこぼれた

・やったあ、生きている
・生きられてうれしい
・助かってよかった

人間の生と死に直面

・やっぱり命は大切だ
・生きていることはすばらしい

自殺をする人への同情心をきっぱり捨てた

・自分の生命を絶つことは生命を軽視している
・生きたくても生きられない人もいるので、命を粗末にすべきでない。